

氏名 赤 沢 康 雄

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 200 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和41年12月31日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学 位 論 文 題 目 直視下大動脈弁2帆化に関する実験的研究

論 文 審 査 委 員 教授 砂田 輝武 教授 田中 早苗 教授 西田 勇

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

気泡型人工心肺による体外循環下に逆行性冠灌流法を併用して、大動脈弁交連の直接縫合による2帆弁化の急性実験をおこない、次の結論を得た。

1. 試獣はすべて24時間以内に死亡したが、手術を完了し、閉胸後自発呼吸のみられたものは16例中7例であった。弁交連の直接縫合に耐え得た9例のうち、6例は大動脈弁閉鎖不全を発生したが、これは弁交連直接縫合に際しての弁葉の損傷または縫合後の裂離、裂開によるものである。

2. 死因についてはなお不明の点があるが、後出血（胸腔内出血）、大動脈弁閉鎖不全、心筋障害ないし心筋アノキシアの3者が重要と考えられる。

3. 3例の2帆弁化手術成功例について、術前後の影響を検索するために、左心室および大動脈圧曲線の分析と心拍出量の測定をおこなったが、有意の大動脈弁狭窄または大動脈弁閉鎖不全は認められなかった。すなわち1弁交連のみの接合によっては、血行動態的に有意の変化を来たさないことが判明した。

4. 大動脈弁閉鎖不全症に対する外科的治療法としての2帆弁化手術の臨床への応用性について考察した。

論文審査の結果の要旨

本研究は、大動脈閉鎖不全症の直視下弁成形術について研究したものであるが、本症の修復法として、大動脈3帆弁を2帆弁化することが有用であるという重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。